

news

THE MUSEUM OF MODERN ART, WAKAYAMA



石垣栄太郎《群像》1935年 油彩、キャンバス 太地町立石垣記念館蔵
「生誕120年記念 石垣栄太郎」展より

石垣栄太郎 一生誕120年、本貫の地で考えたこと

和歌山県立近代美術館 館長 熊田 司



ハーレム裁判所の壁画画稿（アフリカにおける奴隷狩り）1935～37年頃 木炭、紙 当館蔵

和歌山に赴任して一年半ちかくになる昨年9月6日、私ははじめて太地町を訪れた。「生誕120年記念 石垣栄太郎展」の開催にあたり、多大のご協力をいただいた太地町立石垣記念館に向いて謝意を表するためである。

和歌山県でも、大阪から紀勢本線に乗って南に向かい、田辺、白浜を過ぎて串本より先には来たことがなかった。南に潮岬、大島を望み、奇勝「橋杭岩」を右に見ながら、その陸地側の端緒である岩山をうがつ短いトンネルを潜ると、未知の眺望が果てしなく前に連なる。それは「熊野」のはじまりでもあろうか。緑濃い山塊と、青黒い黒潮を沖に流して満々たる海水が、太古からせめぎ合って形成された浸食崖は、大小のジグザグを海岸線に繰り返す。その岩蔭へはばりつく小さな集落、また豊富な雨が溪谷となって流れ出た河口に立地する、やや大きな村などを縫うように鉄路は走り、この先ずっとゆけば「神風の伊勢」の海にまで到るのであろう。しかし、いま眼前に開けようとしているのは、古代から「常世」への入り口と見做されてきた熊野の海山である。常世はまた「常夜」であり、魂の寄りきたる仙境とも、また直截に「死」の世界

とも考えられてきた。しかし、南東の大海原に相対して温暖な陽光を浴びる熊野の天地の、何という穏やかさであろう。

意外にも太地の駅は山あいであった。それなりに立派な駅舎であるが、今は無人駅となって閑散としている。この寂れた駅のホームに降り立ったとき、若い白人系外国人の男女が同時に降車したのを見て少なからず違和感を憶えた。車で迎えに来てくれた歴史資料室学芸員の櫻井さんに連れられて、先ず公民館に宇佐川教育長を訪ねてあいさつを済ませ、その後目的の石垣記念館に向かった。緑の芝草が心地よい常渡の浜のやや奥まったところに、記念館はひっそりと建つ。在米生活が長かった画家のメモリアル・ミュージアムらしく、いかにも明るく開放的な平屋建てで、展示室反対側の一角に復元されたアトリエは、栄太郎、綾子夫妻の瀟洒な生活ぶりを伝える。とても気持のよい施設であるが、瀬海の北向き傾斜地に位置するためか、嵐のときなどは大粒の雨が、記念館正面から海水混じりに吹き上げてくるそうだ。宇佐川さんが「太地の雨…」とつぶやいた、恨み節とも諦念ともつかぬ語調は、はしなくもこの街の厳しい自然、そして苛烈な歴史を暗に示教した。

記念館の周囲には、「くじらの博物館」や捕鯨船資料館もあって、この街の観光スポットとなっている。が、何かしら違和感がある。次の特急まで時間があつたので、櫻井さんに車であちこち案内していただき、説明を聞くうちにこの「違和感」の正体が少しずつ見えてきた。高台から見下ろした小さな入り江、太地湾は波もなく碧緑色に静まりかえる。そこに浮かぶ一隻の白い船は、海上保安庁の巡視艇である。改めて周辺の道路を見渡すと、この小さな港町には異常とも思える数のパトカーが、諸所に配されている。過激な反捕鯨団体への備えである。先ほど見かけた外国人男女も、そのメンバーだったのだと腑に落ちた。やがてイルカの「追い込み漁」がはじまると、碧緑色だった港の水が血の赤に染まるという。それをかれらは残虐非道と声高に指弾し、実力で妨害行動に出て住民とトラブルを重ねてきた。「動物愛護」思想や、とりわけ高度な知能を備えた鯨類への感情移入を理解できなくはない。しかし、この地で鯨は豊饒の海から寄りきたる「神」の恵みであり、自らの生命を賭して格闘し、幸い仕留めればそのすべての部位を利用し尽くして自分たちの生活に変える。まさに、人生そのものを支配する尊く畏怖すべき存在であった

古来、鯨の漁とともに生きてきた太地の民にとって、鯨と無縁の生活はありえなかった。石垣栄太郎も例外ではない。父祖は代々捕鯨、いやここでは露伴の名高い小説の題ともなっている「勇魚取」の言葉を用いたが、その漁船を作る船大工だった。しかし、幕末から明治初年になると、絶頂期を迎えたアメリカ式商業捕鯨が太平洋の西にまで乱獲の限りを尽くす。ペリー来航も捕鯨船の補給基地確保が主な目的だったといい、日本近海では眼に見えて鯨が減少したらしい。結果、太地では1878(明治11)年の暮れに「大背美流れ」と呼ばれる悲惨な事故が起きた。気性が荒く、ふだんは漁の対象にならない仔連れの巨大なセミクジラを沖合まで追い、100名を超す犠牲者を出して以後太地の「勇魚取」は命脈を絶った。生業を失った住民たちは、あるいはノルウェー式の近代捕鯨船に雇われ、あるいは栄太郎の父のように出稼ぎ移民として海を渡ったのである。



《自画像》 1917年 油彩、キャンバス 当館蔵

鯨が消えた大海原の涯には何があるのだろうか。思えば、太地のすぐ北には「補陀落渡海」で有名な那智の浜がある。古代末から近世初頭にかけて、南海の観音浄土を目指して単独「うつぼ舟（目なし舟）」に乗り込み、海上に漂い出た渡海上人たちは、死を覚悟しながら転生を念じ、あるいは転生としての「死」にあくがれ出て「常世浪」を越えた。熊野、また紀州からアメリカや豪州への移民を多く出した背景には、こうした精神風土が底流すると思えてならない。死ではなくとも転生への決死の挑戦であり、安易に「アメリカン・ドリーム」のひと言では片付けられないのである。父に呼ばれて新宮中学を退学した栄太郎は15歳で太平洋を渡り、シアトルを経てひとまず西海岸の小さな町に落ち着いた。レストランの給仕やホテルの掃除夫となって生活の資を得ながら、英語を学ぶために通った美以（メソジスト）教会でキリスト教と社会主義に目覚める。

18歳になったばかりの栄太郎はサンフランシスコに移住、当地の日本人社会で美術骨董品修理の仕事を見つけ、自身画家たらんと決意して女性彫刻家ガートルド・ボイルと運命的な出会いをする。1914年、まるで駆け落ちのようにニューヨークに移った二人は、以後11年間をともに過ごした。この間、栄太郎はアート・スチューデントズ・リーグで、「ごみ箱派」の画家ジョン・スローンに師事し、片山潜在在米の日本人社会主義者とも交流を重ね、やがて禁酒法時代から大恐慌時代を迎えるアメリカ社会におい

て、サッコ・ヴァンゼッティのような陰惨な事件を発症する病理に満ちた「アメリカン・シーン」を描く気鋭の画家として、確固たる地歩を築くのである。太地や新宮に留まっていたら、こうした運命は当然開けなかったであろう。たとえ東京に出たとしても、そこから米国に渡って医学を修め、郷里に戻って地域医療に粉骨を尽くしながら、「大逆事件」の冤罪によって落命した新宮の先人大石誠之助と、どれだけ違った途をたどれたであろう。アメリカという異郷に転生することで、栄太郎は他とは峻別される個性的な人格を確立したのである。

1929年、後半生の伴侶となる田中綾子と結婚。ようやく生活と精神の安定をみた栄太郎は、独立美術家協会展などにつぎつぎ力作を発表した。そのテーマは、白人至上主義のK.K.K.（クー・クラックス・クラン）によって樹に吊されようとする黒人、警官隊に鎮圧される退役軍人のボーナス要求デモ、キューバ農民の叛乱といったものが多く、有色人種や植民地労働者、下層民といった社会的弱者への深い眼差しを貫いて、薄っぺらな政治的プロパガンダとは一線を画する重厚な絵画であった。アメリカ史上でも、例外的にアナキズムや社会主義思想、労働運動が広がりを見せた時代である。大恐慌下、ニューディール政策の一環として雇用促進局が1935年に開始した連邦美術計画

（WPA）に、栄太郎も参加してハーレム裁判所の壁画に取り組み、四面のうち二面《アメリカの独立》と《奴隷解放》を完成させた。しかし、白人系住民の誹謗中傷によってハーレム区会は壁画の撤去を決定、渾身の大作はあえなく破壊され、残る二面の下絵画稿だけが残されたのである。

反ファシズムの立場を貫きながら、1941（昭和16）の日米開戦後は敵国民として行動を制限され、1945（昭和20）年の終戦は二重の敗戦となって栄太郎を打ちのめしたのではないか。郷里では父と弟が相次いで逝去し、足許のアメリカ戦後社会にはマッカーシズムの「赤狩り」が吹き荒れる。FBIによる尋問を受け、逮捕・移民局への拘留を経て1951（昭和26）年ようやく、栄太郎・綾子夫妻は国外退去のかたちで故国へ向かう船上の人となった。

帰国後目立った活動もなく、東京三鷹に安住の地を得た栄太郎は7年後に長逝、遺骨は海を見下ろす太地の墓に埋葬された。いま、そこで栄太郎の霊は何を夢見るのだろうか。人間と神のごとき「勇魚」の、生命の尊厳をかけた死闘という前世の記憶なのか。また、海の向こう1930年代アメリカに残してきた民衆たちの、生存を賭す闘争と、そのうねるようなエネルギーが画筆に乗り移った自らの比類ない絵画体験なのだろうか。

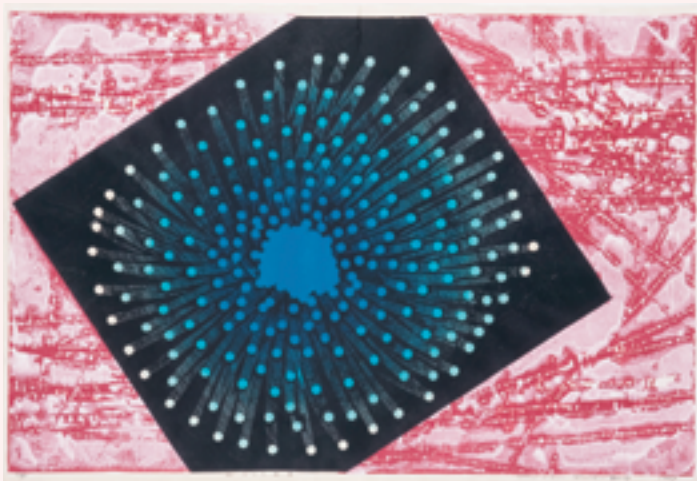


《ボーナス・マーチ》1932年 油彩、キャンバス 当館蔵



新宮中学時代スケッチ 1908年 鉛筆、紙 太地町立石垣記念館蔵

人間と宇宙のドラマ 吹田文明・堀井英男・長岡國人 展



吹田文明《開かれた世界》1967



長岡國人《ISEKI / PY XVII》1978

芸術家が追い求める表現は、作家ごとで様々に異なったものです。その探求は真善美といわれるような価値に関わるものであると言って間違いはないのでしょうけれども、そのような抽象化された概念自体が提示できるわけではありません。芸術家が提示してくれるのは、ほとんどの場合、ある色や形をもった具体的な作品です。概念としては一言で言い表される価値の探求が、作品においては実に多様な現われ方をしています。作品によって芸術家は何かを表現し、私たちはそれを読み取ろうとします。一人の作家が生み出す作品に備わった共通性を作家の個性としてとらえ、他の作家の個性との違いを理解しようとするのです。

吹田文明、堀井英男、長岡國人という三人の芸術家を紹介するこの展覧会も、三者三様の表現を並べて見ることで、共通する点と異なる点のいずれもを際立たせて見ることができるのではないかと考えたところから出発しました。

まず、制作の手法として三人とも版画を用いています。ただ、吹田が木版を用いるのに対して、他の二人は銅版で制作しています。堀井と長岡は、銅版に特有の鋭い線とともに、アクアチントを用いた表情豊かな面の表現が特徴的であるところが共通しています。そして三人とも、色彩の豊かな作品を制作している点が共通していると言えるでしょう。

吹田文明(1926-)の制作は木版による

と書きましたが、それは桜材などを彫るといった、日本で伝統的に用いられてきたのとは全く違うやり方です。吹田は、戦後南洋から輸入されたラワン材を用い、その表面を金属のブラシでこすって細かい線をつけ、複数の版を違う角度で刷ることによって、色彩の濃淡を表現するという独特の技法を用いています。版にはドリルで穴を開け、それが星や銀河の表現になると同時に、制作の際には版を置く目印にもなります。油性と水性のインクを使い分けることで、画面に奥行きが生まれています。油性のインクを刷り取るために、木版用のプレス機を開発しました。技術面での自由な取り組みが表現の新鮮さにつながり、抽象的な造形から宇宙の雄大さを感じさせる表現が生み出されています。

堀井英男(1934-1994)の作品には、人間らしいものが描かれていますが、戯画化されたその姿は、人間そのものであるよりは人間の振りをする人形のようなでもあります。題名にある「魔法の部屋」で、口を半開きにしたその表情は、自らが置かれた状況に対して驚いているような、意図せざる状況に不満を示すような、あるいは魔法のできばえを自慢するかのよう、はっきりとは解釈できない複雑なものです。人間らしく描かれないことで、逆に人間の存在とはどのようなものかと問いかけているようでもあります。早過ぎる晩年の作品では人物た



堀井英男
《magic room 82-9》
1982

美術館と学校教育

なかしょうミュージアムをお手伝い

美術作品を鑑賞するというと、随分堅苦しいことに聞こえます。学校の授業で取り組まれる時も、先生方自身が難しそうだと思われていることが多いようです。もちろん鑑賞自体は非常に複雑な行動で、こうすれば良いと簡単に教えられるものではありませんし、得手不得手もありますから、鉄棒が苦手な人が逆上がりできるようになる程度には練習と経験が必要ではあります。

平成23年度に全面改定された小学校の学習指導要領には、国語科の第3・4学年の内容として「図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること」が盛り込まれました。また、6年生の国語の教科書には高畑勲さんの『鳥獣戯画』を読む」という文章が掲載され、絵巻に描かれた内容がどのような言葉で表現されているかをとらえることが、課題となっています。

海南市立中野上なかのかみ小学校では、この課題



いろいろな画集から6年生23人が一人一人違う作品を自分のお気に入りとして選んでいます。

ちの口が閉じ、新たな展開が予想されますが、作者はそれを示すことなく60歳で亡くなり、2014年に没後20年を迎えます。

芸術家を目指して西ベルリンで銅版画を学んだ長岡國人(1940-)の作品に描かれるのは、人間のいない風景のようなものです。大地の様相と言っても良いかもしれませんが、しかし一方でその光景は、風景と呼ぶにはあまりにも人工的で奇妙なものです。あるいはどこか他の星の地表なのか、それとも人類が減ってしまった後の風景なのか。東西冷戦のさなかにあった西ベルリンという



川口軌外作《少女と貝殻》を読み取っていく授業の後、みんなが選んだ作品について、わからないところなどについてもお話ししました。

をさらに進め、「なかしょうミュージアム」を開き、6年生の一人一人が学芸員となって、自分のお気に入りの作品について4年生に伝える、という課題に取り組みました。

教科書の文章を読み、《風神雷神図》を見て読み取るという授業に加えて、実際に学芸員の話聞いてみたいというご依頼をいただき、出かけてきました。課題としては当館館蔵作品であり、和歌山出身の川口軌外が描いた《少女と貝殻》を選びました。まず、描かれた対象を読み取っていき、描かれた内容について考えてみた後、作品の背景や作者について少し紹介しました。その後、みんなが選んだ作品についての質問をうかがいましたが、一時間の授業では23名全員にアドバイスすることはできず、伝えきれなかったことも多くありました。それでも、自分たちが説明をするときの参

考になったようでした。

「なかしょうミュージアム」そのものは拝見にうかがうことができませんでしたが、他学年や地域の方々にも好評だったとのお知らせを後日いただきました。

和歌山県教育委員会では近年「ことばの力」の向上に取り組んでいます。美術作品の鑑賞を課題とすることで観察、読解、表現という一連の学習が効果的に行える取り組みとして、有意義な内容であると感じました。また、図画・工作科の指導要領には「児童や学校の実態に応じて、地域の美術館などを利用したり、連携を図ったりすること」に配慮することが記載されていますので、このような取り組みが続けられ、他の学校でも試みられれば良いですし、参考にしていただけることがあればお手伝いしたいと考えています。(奥村泰彦)

環境、そして作者が生まれ育った浅間山のふもとという環境が、大地と人間の関係をこのような表現に結実させたと言えるでしょう。そこに描かれた大地と得体の知れない構造物は、空想的でありながら実在するもののような堅固さを併せ持っていますが、それはヨーロッパの銅版画の歴史を踏まえた確たる技術に支えられた表現ゆえなのです。

もちろん、三人はそれぞれ芸術家として強い個性の持ち主ですから、その探求は全く別のもののはずです。芸術家が表現を行う道筋も、私たちがそれを読み解く道筋も、

それぞれただ一つの道に沿っているわけではなく、むしろ多様で複雑に入り組んだものです。優れた作家や作品ほど、この回路が複雑に、あるいは豊かに入り組んでいて、思いがけない発想や解釈に気付くことがあります。

三人の作品には、人間が姿としては描かれていないにも関わらず、人間の存在を強く感じさせる場所があります。また、地上とは違う重力に支配された世界のようにも思えます。皆さんはどのようにご覧になるでしょうか。(奥村泰彦)

香山小鳥 ゆめの日のかけ 拾遺

当館で所蔵する香山小鳥の作品は1988年に恩地孝四郎のご遺族、邦郎氏から田中恭吉関連作品と共に寄贈いただいたものである。1913年に香山が亡くなった後、遺作集をまとめようと田中恭吉が作品の整理をしていたのだが、ほどなく田中も病に倒れ、彼の没後は田中の遺作集を出そうとした恩地孝四郎が保管していたのだ。

特集展示「香山小鳥：ゆめの日のかけ」（2013年9月14日～12月1日）では、香山小鳥が21年の短い生涯を閉じてから100年となるのを記念して、田中や恩地が木版画を手がける先駆けとなった香山小鳥の1911年から1913年までのペン画や木版画、油彩画を、時系列に沿って北原白秋の著作など周辺資料を交えながら88点を展示した。

展覧会では田中や恩地、藤森静雄が刊行した『月映』VI（1915年6月）に発表された香山の版画《習作》や田中がその紹介のために記した文「香山小鳥のこと」を展示し、解説リーフレットにも掲載したのだが、実はそれらとは別に、香山が亡くなって10日余り後に田中が記した遺作集の草案があった。5枚の紙の表と裏に断片的な言葉を書き付けたメモで、文脈の不明な部分も多いのだが、読み取ることのできる部分を、時系列と思われる順に再構成してここに記しておきたい。

田中恭吉 香山小鳥遺稿集の草稿 1913年7月1日 ペン・鉛筆、紙(5枚)

[1枚目 表]

君に會って丁度一年だ
春のもや、池の端を私一人ぶら〜歩いて
ゆくと
赤い土耳其帽をきた一青年が
香山小鳥だった。

私はそのころ池をみをろす
白い三階¹の一室に住んでゐた

小鳥のすむ家もすぐ傍であった
上野の学校で
白いブルーズ姿でよく手に土を
つけて廊下

最後の一年間は僕一人で領有してゐたとも
言へる
あなたと私とは

[3枚目 裏]

松の影にはたんぽぽが一面に咲き出して
ゐた。

Kはその影にMとYと一緒に座った。
三人の心はそれぞれに興奮してゐた、廣い
野がみえた。櫻草が一面がさき
川土手のかなたからはのんびりのした舟う
た、鳥の声、がまちってきこえた、榛の木、
林、森、

Kの心には一種の誇りがわいてゐた。自分
は今MとYとを教育する地位にあると
考へた。A、Aと女の名を繰り返した。

Mは無暗に喜んでゐた。見しらぬ世界が
俄にひらけてきたと思つた。
明日を様々に彩ってかんがへてみた。

[1枚目 裏]

植物園の記憶のうちに 鬼げしの花ほど
強くやきつけられたものはない

[2枚目 表]

夏が
黄色いダーリヤの日にひかる縁側で
横笛を吹いた
二度吹いた

ハーモニカの歌口に水をそゝくの
私は不思議に思つてみてゐた。
君は越後獅子をふいた。

その次をよく覚えてゐない。けれど
水に近い二階窓■あけてその笛をふいた
とき
村のE■■■たちが首をさしのべてきてゐた
それは水のたるやうな月で、われをわすれ
てふきつづけた。

高原
ぼつねんと座つてゐるとあたり一面の月待
宵草■がほ一つほ一つと
ひらき初める
深い紫にそまつて日は 星がひかる ゆう
ぐれさびしさが

『高原の夏をみに来ないか』
『きつと行くよ』と約束

[3枚目 表]

「E」さんから教はつたんだと云つてよく歌つ
たっけね
月はおあすむ はあるの夜——」だの「青葉
の海に漂ひて」だの
「君と別れて」だの、公園の瓦斯の下や、池
のまはりでよくうたつた。
細いしみ通る様な声で。
僕は思ふ、あの長い桜の堤を。水を、舟を。
廣い櫻草の原の夕暮を
菜の花、つばくらめ。

それから暫く僕がだだをこねて君をすっか
り困らせたんだね。
僕が上野から根岸へこして
「初夏の會²」があつたっけ

七乙女

うら若ふ草をしとねにしきて、
もすそも軽う■に乙女ら集ふ。
小鳥は梢に

[2枚目 裏]

もう学校の服をつける身でなくて
深川の富川町であつた

[5枚目 表]

でも一月の元日 Yさんの家で落ちあつた時
は元気だつた。
暮にふつた雪がまだ眩しく残つてゐた。
Yさんや奥様、他の女の方たちと羽つきを
して遊んだ

その晩は二人で寝た。
二人で早くいい時候になればと會ひあつ
た。
二人の頭には桜の堤だの櫻草の野などが日
に光つてゐた、
「その夜のE」をみると驚

この
集を
な
亡き
小鳥にさゝぐ

寒さのきびしさかある夜私は深川へ
行つてみた。小鳥はまた病氣をしたと言つ
て
ふとんをしいたまま それでも枕によりす
がて 彫刻刀をうごかしてゐた
「深川の冬」は一番私を動かした。

小鳥の一生は「深川の冬」でよく現されて
ゐる

[5枚目 裏]

その晩ははじめて深川へとまつた

「ザムボアはいらない、桐の花を」
葉書は私の最後であつた、

「小鳥はどうしてゐる」と
充分よくなると信じてゐた、そしていろんな
計畫をたててゐた 僕の心では
「秋になったら」といふ気がしてゐた。
二十八日に孝ちゃんから突点、
「小鳥さんはなくなつたんだってね」と言は
れた時はと思った

悲しいといふよりもひどい裏ぎり方をして呉

れたと思った。

[4 枚目 表]

臨終の部屋には『深川の冬』の前に「香川藤祿之霊」とかいた白木の位牌が静にたっていた

いままで随分多くの画をみたが

どっかで悲しいたい叫がする

「H」「H」とSISTARの名を「さよなら」と言って

「話をすると困しいかい」と聞いたらだまっ
てうなづいて それでも寂しい笑顔がうかん
できた。

小母さんと母様とは代る代るなくなるまでの経過を話して呉れた、

「二十日の午後四時——大正二年六月」私
はだまって線香の煙のあとを追って居た

SISTARは折々ちっと顔をふせてゐた 君
の骨を抱いて信濃まで汽車でゆられて

ゆく兄さんの姿を浮べた。そして何にも知
らずに樺太をめぐるゐられる黒田様

をも考へた。

棚にならんでゐた遺作の品々を製理する僕
はたまらなくつらかった。

人ごとでないと思つた

僕の細い手を見つめた。息さへ絶えれば
数日のうちに腐敗する肉体

を私ももつてゐるのだ、
スケッチブックや原稿紙をつみあげて これ
が小鳥の一生だった

と思ふと胸がつまった

いまわたしは遺稿を前において
小鳥、小鳥、僕はどうしても君が死んだと
思へない

例のきまぐれでついと故郷へかつて、高原
にねころんで
歌でもうたつてるとしか思へない。

(七月一日)

布団をしいたまま枕によりすがって彫刻
刀を動かす香山の姿と彼の木版画《深川の
冬》が田中の目に同時に焼き付いていたこ
と、「ザムボアはいらない、桐の花を」と香
山が北原白秋の詩集を読みたがっていたこ
と、臨終の部屋では《深川の冬》の前に「香
川藤祿之霊」とかいた白木の位牌が置かれ
ていたこと、棚にならんだ遺作の品々を田
中が「人ごとでない」と思いながら整理し
たこと、スケッチブックや原稿紙をつみあげ
て「これが小鳥の一生だったと思ふと胸がつ
まった」と書かれているのは重要である。



香山小鳥《深川の冬》1912年 木版、紙 個人蔵

展覧会の終わりには、田中が遺作集の
計画について記した恩地あての葉書が並ん
だ。

お葉書、それから「歓楽」ありがたう。十九
日に大阪からきたのでしたが、いつものな
まけぐせでぐずぐずに過ぎてあました。遺
稿は、うれしいことには、出す筈になりま
した。いつか夢様に遺稿の話をしたとき、
「上野クラブ」時代を中心として同人がみん
なでかいたらいいだらうと申されました、あ
なたも何か是非かいて下さい。かかなくて
はいけません。

もののけの 黒くしづかにそふごとし お
そきめざめのあさの散歩に。

1913年7月26日の消印がある。香山が
亡くなった後、前掲の草稿が記された3、4



田中恭吉 恩地孝四郎あて葉書 1913年7月26日(消印) インク、紙 当館蔵

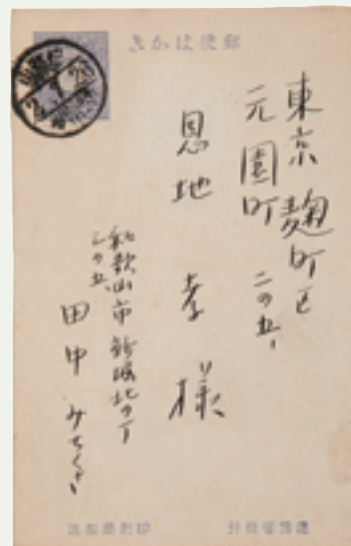
週間後の書簡だ。文中にある「歓楽」とは、
1912年に神戸で創刊された文芸雑誌で、
「10月詩歌号」が立命館大学図書館に所蔵
されており、香山が表紙絵や挿絵、詩歌を
寄稿していたことが分かっている。また「上
野クラブ」は田中や夢二が住んでいた頃に
香山も加わって、夢二が主宰していた雑誌
『桜さく国』同人による半折画の展覧会を開
こうとするなど、彼らにとっても青春を謳歌
した時期を象徴する場所だったようだ。夢
二は田中から遺作集の計画を聞いて、恩
地や久本DON(信男)ら「桜さく国」の同人
がみんなでかいたらいいだらう」と意見を
述べ、そして田中は恩地に「あなたも何か
是非かいて下さい。かかなくてはいけませ
ん。」とこの葉書を書き送っているのである。

しかし同年10月には田中も香山と同じ
結核であることが発覚し、田中は何度も死
を覚悟しながら療養を続ける中で「遺作集
への思いを『月映』VI誌上で漸く遂げること
ができたのだった。そして1915年10月
に田中は亡くなった。その後、恩地は版画
のパイオニアとして歩み続け、1955年に没
するまで彼らの作品を手元に置いた。

「あなたも何か是非かいて下さい。かか
なくてはいけません。」という言葉は、その
後の恩地の胸にどんなに響き続けたことだ
ろうか。 (井上芳子)

*1 白い三階 上野倶楽部という日本で最初のア
パート。田中と竹久夢二が同時期にそこに住ん
でいた。

*2 初夏の会 東京美術学校の校友会月報の編集
委員だった川路柳虹や広川松五郎らが中心に
なつて行われた短歌会で、香山と田中も参加
した『東京美術学校校友会月報』10巻9号、
1912年6月]



和歌山美術館教育研究会 ニュースレター

当館では、美術館を活用した教育を実践するための集まりとして「和歌山美術館教育研究会」を主催しています。近代美術館を拠点に、学校や科目の枠を越えた先生方の交流の場となり、また教員を目指す学生が先輩の先生方から現場を学べる会を目指しています。これまで、ほぼ2ヶ月に1回のペースで集まり、すでに23回の会合を重ねてきました。

活動内容としては、開催中の展覧会と一緒に鑑賞したり、展覧会を題材とした課題を考えるなど、また先生方が各学校で取り組まれている授業や他府県での取り組みについて、互いに紹介・検討しあっています。

今年の「なつやすみの美術館3『美術の時間』」展をきっかけに、研究会の活動を記録し、紹介するためのニュースレターを発行し始めました。まだ2号を発行したところですが、継続してゆきたいと思っています。美術館受付でも配布を行っており、また当館ホームページでダウンロードすることも可能です。是非、ご覧ください。（教育普及課）



平成 25 年度 友の会 美術鑑賞ツアー

毎年恒例となっている友の会美術館賞ツアー。今年は参加者82名の大所帯で、10月20日(日)に実施しました。

午前7時、あいにくの小雨が降るなか、和歌山を貸切バス2台で出発し、午前10時に滋賀県守山市にある佐川美術館に到着しました。琵琶湖のほとりにある佐川美術館は、和の印象を重視した建築で、無彩色を基調とした切妻造の平屋が、水庭に浮かぶように3棟配置されています。同館では「平山郁夫展 絲綢之路・悠久の旅路」展、「吉左衛門X 一上原美智子 染織 + 樂吉左衛門 陶・茶入 土田半四郎 仕服」展を鑑賞しました。その後、大津プリンスホテルで琵琶湖のパノラマを眺めながら昼食をとってから、滋賀県立近代美術館へと移動し、特別展「柳宗悦展 暮らしへの眼差し」、常設展「人物の表現 カオス(渾沌)とコスモス(秩序)」を鑑賞しました。

バスツアーだからこそ可能となる少し遠出の美術館賞。参加者のみなさんも満喫されている様子でした。

(友の会事務局 松原)



佐川美術館の水庭を臨む

Museum Calendar

開館 / 9時30分～17時00分 (入場は16時30分まで)
休館 / 月曜日 (祝休日の場合は開館、翌平日休館)

モノ 物質と美術

12.17 (火) - 2.11 (火・祝)



小清水漸《花・赤い》1986

美術作品を構成する物質は、ただ作品の素材であるだけではありません。作品がそうあるために必要な理由でもあります。物質という側面から作品について考える展覧会です。

版画について考える

2.18 (火) - 3.30 (日)



村井正誠
《黒い太陽》
1962

『大阪朝日新聞』に特集「版画展覧会」が掲載されて100年、作り手の「自画、自刻、自摺」により、版画を近代的な美術作品と位置づけようとした創作版画、現代版画の問題を考えます。

コレクション展 2013/14-冬

特集展示 人間と宇宙のドラマ :

吹田文明・堀井英男・長岡國久

12.17 (火) - 2014.2.23 (日)



堀井英男《magic room 82-9》1982

コレクション展 2014-春

特集展示モノクロームの世界

2014.3.1 (土) -

メールマガジンのご案内

展覧会の情報はもちろん、講演会、トーク、ワークショップなど当館に関連するタイムリーなトピックスを定期的にお届けしています。当館ホームページよりご登録いただけます。ぜひご利用ください。



友の会
会員特典
いろいろ

1. 展覧会の無料観覧 (同伴者1名まで)
2. 展覧会レセプションへのご招待
3. 展覧会のご案内、美術館ニュース、その他情報の配布
4. 当館ミュージアムショップ、レストランでの割引
5. 各種行事への参加 (美術鑑賞ツアー、ミュージアムコンサートなど)
6. 版画の頒布会への参加

入会のご案内

一般会員 6,000円
学生会員 3,000円

ミュージアムショップにてお手続きいただけます。会員証即日発行。郵便振替でもお申し込みいただけます。詳しくは友の会事務局まで。

Tel. 073-436-8690 担当: 松原

